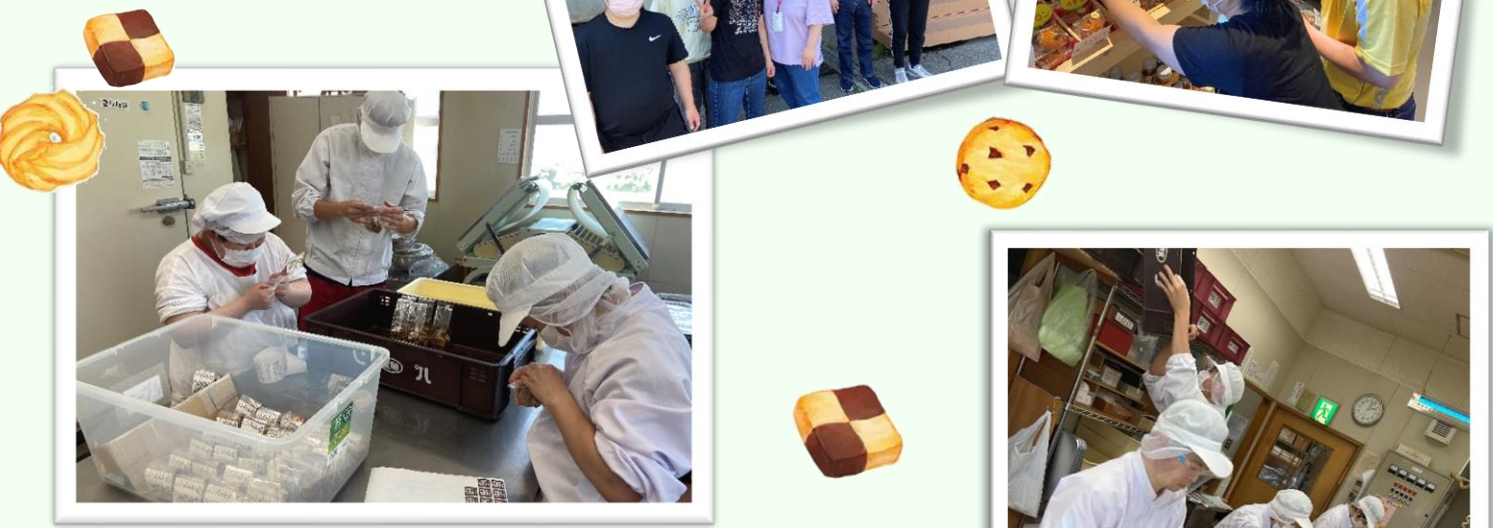


ふたかみ NEWS プチトマト

製菓班

製菓班は今年度も明るく営業中！！納品先でも頑張ってます！！



昨年から、はびきの園の外での販売が無く、商品の販売先も限られていますが、みんなで作ったお菓子が売れるよう、丁寧に製菓作業に取り組んでいます。
今年度は去年度よりもたくさん売れるよう

みんなで頑張るぞ～！



アルミ缶大募集！



はびきの園のリサイクル班では、地域の皆様の協力のもとアルミ缶のリサイクル作業を行っています。回収したアルミ缶は圧縮した後、リサイクル業者に納品をします。それらが売り上げとなり仲間の給料として繋がっています。近頃では、コロナウイルスの影響もあり回収先が減っているのが現状です。お伺いいたしますので、アルミ缶の提供にご協力ください。

問い合わせ先：072-957-4041（はびきの園）

ご協力よろしくお願いいたします

ななかまの絵画がTシャツになりました！！

はびきの園アトリエ班で、絵画に取り組んでいる福井良太郎さんの作品「ゆずの木」が、夏物品にてTシャツ販売されます。購入を希望される方下記までお問い合わせください。



サイズ→S・M・L・XL 2,200円＋別途送料

問い合わせ先
はびきの園：072-957-4041
担当：山田



■後援会入会及び更新の方々（敬称略）

【2021年度5月】

- | | |
|----------------------|------------|
| ・西原俊子 | 以上5口 |
| ・森和寛 | 以上3口 |
| ・加藤紀子 | 以上2口 |
| ・城裕久子 長井吉久 山口元子 谷真理子 | 以上1口 |

■寄附金.....高川正之様

■ボランティア.....であい様／畑英作様／細川直幸様／松倉和代様／垣内秀夫様

■アルミ缶回収（5月分）.....842kg

ありがとうございました

◆2021年度ふたかみ福祉会後援会入会、更新のお願い◆

法人では用地を確保し、暮らしの場の充実をはかっていきます。

皆様の引き続き日中支援事業所や相談支援へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

【個人会費：1口3,000円 団体会費：1口10,000円】 郵便振替口座：00940-5-325894

研修【被災者支援】「ひとりの『夢・希望』を実現するまで」

法人内研修として、東洋英和女学院大学の石渡和実先生より意思決定についての講義を受けました、

初めに障害者権利条約の話がありました。周囲からは理解されにくい、障害がある方の「命をかけての訴え」を「問題行動」としてとらえてしまうのは支援者の力不足であり、援助技術が不十分であると考えさせられたと話していました。

意思決定支援を考える時に「自己決定」と「自己責任」をセットにせず、「本人が決めたことだから」と支援者の責任逃れにしてはならない。自分らしく、その人ならではの生き方を、どうすればできるのか、それを考え直すヒントになったのが「障害者権利条約」であり、意思決定支援と合理的配慮が、障害者権利条約ができてからの注目ワードであると。また、「社会モデル」として社会や環境の在り方を考える、法律の前に等しく認められる権利「支援月自己決定」も条約の注目点であるとのことでした。

「夢・希望」を実現するまで」

意思決定支援という言葉が一番初めに登場するのが「障害者基本法」である。意思決定支援の定義として、『意思決定支援とは、自ら意思を決定することに困難を抱える障害者が、日常生活や社会生活に関して自らの意思が反映された生活を送ることができるように、可能な限り本人が自ら意思決定できるように支援し、本人の意思の確認や意思及び選好の推定が困難な場合には、最後の手段として本人の最善の利益を検討するために事業所の職員が行う支援の行為及び仕組みを言う』障害がある人は与えられるだけの受け身的な生活も多く、自分で決めるという場面を体験していないとの内容でした。

障害があっても体験を重ねること、選択や決定できる範囲が広がり、それは障害が「ある」「ない」ではなくすべての人がそうであると感じます。限られた空間や環境の中では、選択できることも限られており、私たち支援者や社会全体で人とし

(伊藤)

ての可能性を広げていかなければならないと思いました。「決めてもらうこと」に頼りすぎず、「選択・決定」するための情報をどこまで提供できるか、専門的な立場としてどのようにすればよいかを考えなければならぬのが支援者として必要とされているのだと、日常の支援の中で感じています。

石渡先生のお話の中に、「愚かなことを決める権利」といった言葉がありました。失敗しないようにはかわるのではなく、失敗しても失敗後に支えることができる支援をしなければならぬと思います。しかし、内容によっては判断が難しく、強制もできないことからどのように支援として関わっていけばよいのか日々悩んでいます。本人が「なぜそうしたいのか」「なぜそのような行動に出るのか」をもっともっと悩んで関わっていきたいと改めて感じる事ができた研修でした。

(泉谷)

感染症とは、細菌、真菌、ウイルス、寄生虫などの病原体が、空気、食べ物、水、動物、昆虫、人などを介して感染し、様々な症状を引き起こす疾患の総称です。感染成立には感染源、感染経路、感受性者の三要素があり一つでも排除する事で感染を防ぎ感染拡大の予防につながるそうです。私たちがまず健康健康管理をおこない、で過ごす事、感染源にならないように生活している場所の適度な換気と手指の消毒と手洗い、うがいをしっかりおこなうことを再度確認しました。

防護服を着用し、マスク・シールドを着けると視野も狭く息苦しい状態でした。その姿で支援を続けるのは体力も必要だと感じました。いざ本番でテキスト通りにつけれるのかも不安です。

この研修で予防することの大切さを実感し、周りにも伝えて行きたいと思いました。

社会福祉経営者同友会総会

昨年の総会はやむなく中止となり、2年ぶりの総会となりました。この間に、社会福祉は、緊急事態においても人々の暮らしを支える重要な事業であり、そこで働くエッセンシャルワーカーと呼ばれる福祉従事者の役割の大切さの認識も広がりました。

しかしそれほど重要である社会福祉の基盤が、福祉の市場化などで、福祉予算の抑制・削減がすみ、貧困層や社会的弱者が増え、厳しい生活環境へと追いやっています。介護事業所の倒産は過去最多となり、感染させてしまわないか、もしくは感染するのではないかと、福祉従事者の緊張と不安が大きい中、当事者・家族の方々が安心して通える、または暮らせる施設となるように、各々の事業所で奮闘しています。総会では、保育・児童・高齢・障害・生活保護などの各分野から、その実態が報告されました。

昨年4月に「社会福祉経営全国会議」が発足し、同友会の活動も「全国会議」の方に移行し

(関口な)

つつあります。大阪だけではなく、全国とのつながりの中で、コロナ対策を求めた厚労省交渉や、経営実態調査など、権利としての社会福祉を守る共同行動をおこなってきました。そういった全国のつながりも強化しながらも、大阪府内での身近なつながりの大切さ、また府や自治体への働きかけも重要であるため、引き続き大阪での活動も続けていくことを総会で確認されました。また、「自助・共助」「今だけ、金だけ、自分だけ」を追求する新自由主義的政策を許さず、権利としての社会福祉を守り、いのちと暮らしを最優先する社会をつくっていくことを確認して総会は終わりました。

感染防止のため、会場は幹事・役員の14名だけとし、zoomで125名の参加者が集い、現状のままではなく、ともに乗り越えていきたいという思いの強さが伝わりました。

わちゅーれん大阪支部総会。全国総会に参加して

どちらも前例のないリモートでの開催でした。コロナ禍で集まらないという制限はありましたがオンラインという方法で無事に行われました。繋がりが持てず、それぞれが孤立してしまっていた中で、お互いの実践の共有や、到達を確認しました。

大阪支部総会では普段から顔を合わせている私たちの身近な事業所の取り組みを共有しました。その中で印象的だったのが、コロナで作業所のなかまが亡くなられた報告でした。感染を防ぐために日中作業所への通所を自粛していたのに、生活の場で感染してしまいました。医療逼迫の中で救急を呼んでもすぐに搬送されず、治療が間に合わずに亡くなってしまったという事でした。大好きな作業所を我慢してコロナが収まればまた通所したいという気持ちを持ちながら、それが叶わないまま一人で病院で亡くなられたそうです。当たり前の日常の大切さや、一人の命の重みを改めて考えさせられる報告でした。

全国総会には北海道から沖縄まで大勢の人が集まる集会でした。基

研修【被災者支援】

改めて総会を通して確認できたことは、同じ思いを共有している人たちがつながる事で、一人一人が繋がりを縦にも横にも維持しながらそれぞれの主張をして、必要な事を求めていく運動を広げていく事の大切さを実感しました。

(関口耕)

